いしかわの遺跡

No.79
2025.7.31

平安時代の役所に関わる遺跡か

高堂二反田遺跡遠景（北西から）

調査区東側の全景

調査区西側全景

令和６年度、一般県道粟生小松線の改築事業に伴い、小松市高堂町集落の西側に位置する高堂二反田遺跡の発掘調査を行いました。

高堂二反田遺跡では、平安時代の掘立柱建物や墨書土器、横断面が多角形の木柱がみつかりました。多角形の木柱は、寺院や神社など宗教に関連する建物に使われることがあります。

近隣には国道８号改築に伴い調査された高堂遺跡が存在します。昭和 54 ～ 56 年の調査では、平安時代の掘立柱建物や多くの墨書土器がみつかりました。そのほかに重要なお経の名前が書かれた木簡がみつかり、銅銭を納めた穴も確認されたことから、役所や寺院に関連する遺跡と考えられています。

高堂二反田遺跡は、高堂遺跡のように役所や寺院に関連する遺跡の可能性があります。

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
Ishikawa Archaeological Foundation
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地1
TEL 076-229-4477　FAX 076-229-3731
E-mail:daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

いしかわの遺跡

R６発掘調査

高堂二反田遺跡［能美市・小松市］

高堂二反田遺跡は、梯川支流である八丁川右岸の沖積平野に位置する平安時代の遺跡です。一般県道粟生小松線の改築事業に伴い、調査を行いました。

調査の結果、平安時代（９世紀前半）を中心とする遺跡であることがわかりました。調査区の東西で複数の掘立柱建物や水路とみられる溝、土師器の椀や須恵器の壺が出土した土坑を確認したほか、「万呂」などの墨書土器などが出土しました。

調査区の中央からは、側面を多角形に加工・成形した木柱が見つかりました。多角形に成形した柱は、寺院など宗教に関連した建物に用いられることがあります。そのほかに古墳時代後期以降とみられる水田跡（7×7m）を確認しました。

遺跡の東側には高堂遺跡があり、国道８号の改築工事に伴う発掘調査で、平安時代（９世紀頃）の掘立柱建物群や「金光明最勝王経四天王護国品［こんこうみょうさいしょうおうきょう　してんのうごこくほん］」という仏教の教えで国を守ることを説いた重要な経典名が書かれた木簡、和同開珎・神功開宝などの皇朝銭を多数埋納した土坑、「隆」「改吉請」などの吉祥句を記した墨書土器が多く出土しました。北西に位置する中庄町に比定されている能美郡衙あるいは寺院などに関わる遺跡と考えられています。

さらに西方約 700m に位置する中ノ江遺跡の令和６年度調査では、墨書土器や石帯の飾り石（巡方）がみつかり、周辺では役人などの識字層が活動したことが考えられます。高堂二反田遺跡との関連も想定されます。

多角形木柱

同上取り上げ後

古墳時代以降の水田跡の掘削作業（北西から）

出土した墨書土器・墨痕のある土器

平安時代の土器が集積した土坑

R７発掘調査

令和７年度発掘調査と出土品整理

令和７年度は、４件 5,430 ㎡の発掘調査と、28 件の出土品整理を予定しています。

【発掘調査】

国土交通省事業が１件、県土木部事業が２件、県立大学事業が１件です。

昨年度からの継続事業は、能美市・小松市にまたがる中ノ江遺跡１件、新規事業は七尾市国分山遺跡、野々市市末松遺跡、加賀市大聖寺城下町遺跡の３件です。

事業者	事　業　名	箇　所	遺　跡　名	時　代	種　別	予定面積（単位:㎡）
国交省	国道470号　田鶴浜七尾道路	七尾市	国分山遺跡※	弥生～古墳	散布地	3,000
県土木部	地方道改築事業　一般県道粟生小松線	小松市 能美市	中ノ江遺跡	弥生～古代	集落跡	500
	地方道改築事業　一般県道串加賀線	加賀市	大聖寺城下町遺跡※	近世	集落跡	500
県立大学	県立大学　体育館建築工事	野々市市	末松遺跡※	縄文～中世	集落跡	1,430
計　（４件、新規３件※）						5,430

遺跡の位置

【出土品整理】

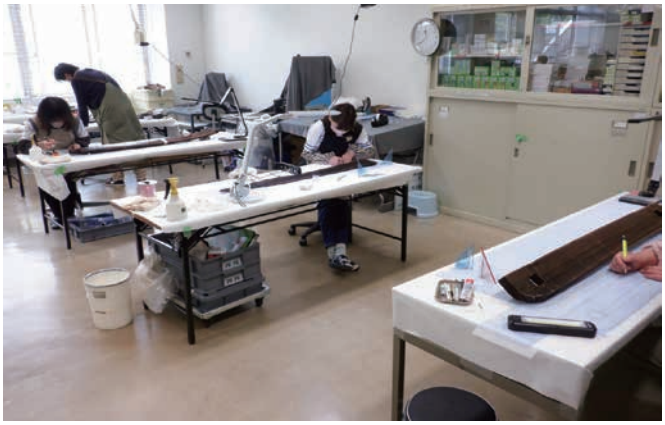
国土交通省関連事業、北陸新幹線建設、県土木部関連事業などに伴う発掘調査で出土した遺物などの整理を計画しています。

土器や木製品などの記名・分類・接合、実測・トレースのほか、発掘調査報告書の作成と刊行を行います。

発掘調査風景（加賀市 大聖寺城下町遺跡）

発掘調査風景（七尾市 国分山遺跡）

土器の接合作業（七尾市 矢田遺跡）


木器の実測作業（小松市 一針Ｃ遺跡）

R６調査研究

環日本海文化交流史調査研究事業
『高地性集落 ー日本海沿岸地域を中心としてー』

石川県をはじめとした日本海沿岸地域の歴史的特質を明らかにするため、テーマを設定し、各地域の方々と調査・研究、交流を図る事業です。平成 12 年度から始まり 25 回目となる研究集会を令和７年２月 13・14 日に開催しました。

令和５・６年度の２ヶ年で、日本海沿岸地域における高地性集落の様相を探っていく内容で、新潟・富山・石川・福井の４県に加え、近畿北部（丹後地方）、山陰（鳥取県、島根県、山口県）、九州北部担当の共同研究者と共に研究事業を進めました。２年がかりで各地域の縄文時代晩期から古墳時代前期の集落を集成し、遺跡の標高や比高、継続期間や環濠について、グラフ化の方法などを統一して資料の作成を進め、研究集会では地域ごとにまとめの報告が行われました。

研究集会１日目　会場の様子

２日目の午後には、同志社大学・若林邦彦さんと当方職員の林さんをコーディネーターとして、共同研究者のみなさんと２時間にわたり討論を行いました。高地性集落というと教科書などで戦いのための“防御的集落”とされてきましたが、若林さんから各地の報告について、これまでの高地性集落論ではなく、地域の遺跡動態の中で“高所立地の遺跡”について取り上げていた点が、まず指摘されました。その後４つの論点が提案され、会場の方々やオンライン参加の方々からの質問や指摘も含めながら、活発な討論が展開しました。

討論開始直前の緊張した共同研究者のみなさん

４つの論点、①高所立地の集落は弥生時代に特徴的といえるのか、②遺跡動態の中での高所立地の遺跡の地域性、③高所立地の遺跡が多い時期はどういう状態なのか、④気候変動、環境変動と遺跡動態に関連はあるのか、などについて各地の状況を含め話し合いました。各地域の報告や討論の詳細は、『石川県埋蔵文化財情報』53 号（2025 年秋刊行）をご覧いただければ幸いです。

今回の研究集会で、環日本海文化交流史調査研究事業は終了となりますが、職員が共同で研究することは、調査員の資質向上や、研究成果を発掘調査事業に生かせることはもちろん、埋蔵文化財センターを訪れるみなさんへ、その成果を何らかの形でお渡しできると思います。また他地域の研究者とのつながりも大切な宝物となります。今後も何らかの形で、このような事業を継続していくことを模索していきたいと思います。

コーディネーターの若林邦彦さん、林大智さん

R６情報発信

発掘報告会『いしかわを掘る』

令和６年度に県内各地で行われた発掘調査の中から、注目される遺跡を紹介する発掘報告会「いしかわを掘る」を令和７年３月２日（日）に石川県立図書館だんだん広場で開催しました。

会場の風景

能美市中ノ江遺跡の報告では、弥生～奈良・平安時代の集落の変遷と、各時代の特徴的な出土品についてわかりやすく報告しました。金沢市南新保Ｃ遺跡の報告では、北加賀最大規模の前方後方墳などの調査成果をクイズ形式で楽しくわかりやすく報告されました。小松市念仏林南遺跡の報告では、月津台地における古墳時代中期の竪穴建物群が確認されたことが、過去の調査成果も交えて報告されました。国史跡能美古墳群を構成する古墳群の一つ、能美市西山古墳群の発掘調査は、史跡整備に伴うもので、豊富な副葬品を発見した当時の感動や苦労も交えた臨場感あふれる報告でした。金沢城跡の報告では、二ノ丸御殿第１段階整備範囲確認調査の総括的な成果が報告されました。

今回からは会場を県立図書館だんだん広場に移しての開催となりました。どの座席からもスクリーンが見やすかったとの感想が多く好評でした。なお、報告会の当日資料は石川県埋蔵文化財センターホームページからダウンロードすることができます。

R６情報発信

ホール展『出土品からみる七尾城下の暮らしぶり』

令和６年度第３回ホール展は、「出土品からみる七尾城下の暮らしぶり」と題し、令和７年３月12日（金）から６月22日（日）まで、令和６年能登半島地震で大きな被害を受けた国史跡七尾城跡で過去に行われた発掘調査成果を紹介しました。

七尾城跡は能登国守護に任命された畠山氏が16世紀（戦国時代）に築いた城館跡で、その範囲は南北約2.5㎞、東西約1.0㎞と全国屈指の規模をもち、尾根筋には多数の曲輪が配置され、山麓に広がる七尾城下町では京風の畠山文化が栄えました。

越前焼大甕に触れスタンプ文を探すことができる展示や白磁や硯など多彩な生活出土品を取り上げ、繁栄した当時の城下町の暮らしぶりを紹介しました。

越前焼大甕

城下での暮らしぶりを示す出土品

R６情報発信

『県立図書館でのワークショップ』

令和７年３月９日（日）、県立図書館食文化体験スペースで「出張！埋蔵文化財センター　まが玉づくりワークショップ」と題して県立図書館と共催でワークショップを行いました。午前・午後の２回、各15名を事前に募集し、埋文センターからまが玉づくりの道具のほか、遺跡から出土した本物のまが玉も持参し体験講座を行いました。県立図書館では、蔵書の中からまが玉や古代の装飾、歴史関係の図書を会場に展示し、興味を持った方はその場で借りることができるなど、埋文センターと図書館の魅力が詰まったワークショップになったのではないかと感じました。

本物のまが玉に触れ太古のロマンに思いを馳せながらまが玉を作り、図書で知識を得る。参加された方々には、埋文センターも図書館も両方の良さを感じていただけたようでした。

県立図書館でのワークショップは、年に２、３回予定しています。不定期で開催されますのでその都度お伝えします。埋文センターや図書館のホームページでご確認ください。

ワークショップの様子

出土品のまが玉に触れる参加者

R６古代体験

古代体験学習講座『剣づくり』

令和７年２月23日（月）、埋文センター体験工房で古代体験ミニ講座「剣づくり」を行いました。午前の部、午後の部合わせて32名が参加しました。

この体験は、金属加工の「鋳造（ちゅうぞう）」を体験する講座で、体験者は、金属器の歴史や金属加工に関する説明を聞き、実際に金属を溶かして型に流し込む「鋳造」を体験しました。融点（ゆうてん）の低い合金を使っていますが、それでも200℃は超える金属を扱っており、危険が伴うものの古代の技術を体験していただけたのではないかと思います。

その後、工具を使って金属の切断（湯口（ゆぐち）の切断）や研磨作業を黙々と進め、講座修了時にはとても綺麗な、光り輝く素敵な剣を作り上げていました。

ドキドキの鋳込み

黙々と研磨

R7 古代体験

手形・足形づくり

令和７年４月 19 日（土）～５月６日（火･祝）のゴールデンウイーク期間に、恒例となった未就学児を対象とした手形・足形づくりのイベントを行いました。

この体験は、縄文時代に新潟県から北海道にかけての地域で出土した「手形・足形付土版」をモデルにしています。乳幼児の手や足を粘土板に押し付けて焼き上げたものを作り、まじない用の護符として身に付けていたといわれています。生きることが大変な時代ではありましたが、子を思う親心の深さを感じずにはいられません。

なお、仕上がった作品は、乾燥後何回にも分けて焼成し、６月 23 日から体験した皆さんへ返却を行いました。

焼き上がった手形・足形

足で踏みつけてね

手の形をしっかりつけよう

R7 古代体験

施設見学・古代体験

当センターでは、県内の歴史と文化を伝える埋蔵文化財を発掘調査し、その出土品を整理・保管するとともに、それらを活用した展示会や体験講座等を開催しています。

来館者は、県内の出土品をテーマごとに鑑賞できる展示室や、古代体験広場にある縄文、弥生、奈良の各時代の復元住居や小松市からの移設古墳等を自由に見学することができ、先人の知恵や技術、ふるさとの歴史を学ぶことができます。また､体験工房では､｢まが玉づくり｣や「火おこし」等の様々な体験を予約無しで楽しめます。

団体での施設見学は、普段見ることのできないバックヤードと言われる出土品の洗浄、整理や保存処理等の作業を見学し、土器等の出土品が整理される過程を知ることができます。平日限定で電話等での事前予約が必要ですが、毎年８月下旬に実施されるバックヤード公開期間中は、予約不要で個人での参加も可能です。

自由見学や工房での常時体験活動は、年末年始以外いつでも無料でご利用いただけます。なお、団体予約の場合は、見学コースや体験活動との組み合わせ、時間配分等、柔軟に対応しておりますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

見学：収蔵展示室

見学：土器の接合作業

体験：火おこし

まいぶん日誌

令和７年
(2025)
３月～６月

3月

発掘調査速報パネル展

県立図書館に出張「まが玉づくり」

ホール展「出土品からみる七尾城下の暮らしぶり」

講座「鉄器づくり」

チマキ状炭化米塊展示

4月

埋文センター桜満開

ゴールデンウィーク「手形・足形づくり」

春季公開　重要文化財「加賀郡牓示札」

5月

こども園の「団体見学・体験」

小学校への「出前考古学教室」

6月

県立図書館に出張「組みひもづくり」

講座「縄文土器づくり」　作品の野焼き